

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成28年2月9日

**【四半期会計期間】** 第36期第3四半期(自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日)

**【会社名】** 全国保証株式会社

**【英訳名】** ZENKOKU HOSHO Co.,Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 石川 英治

**【本店の所在の場所】** 東京都千代田区大手町二丁目1番1号

**【電話番号】** 03 - 3270 - 2300 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役経営企画部長 青木 裕一

**【最寄りの連絡場所】** 東京都千代田区大手町二丁目1番1号

**【電話番号】** 03 - 3270 - 2300 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役経営企画部長 青木 裕一

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間		第35期 第3四半期累計期間	第36期 第3四半期累計期間	第35期
		自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
営業収益	(百万円)	17,518	18,951	29,507
経常利益	(百万円)	13,180	14,933	24,115
四半期(当期)純利益	(百万円)	8,617	9,921	15,112
持分法を適用した場合の 投資利益	(百万円)	-	-	-
資本金	(百万円)	10,681	10,684	10,681
発行済株式総数	(株)	68,858,200	68,860,980	68,858,200
純資産額	(百万円)	54,429	66,986	60,524
総資産額	(百万円)	204,112	221,541	213,970
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	125.24	144.29	219.68
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	125.23	144.26	219.65
1株当たり配当額	(円)	-	-	48.00
自己資本比率	(%)	26.7	30.2	28.3
営業活動によるキャッシュ ・フロー	(百万円)	11,305	11,111	22,803
投資活動によるキャッシュ ・フロー	(百万円)	11,750	9,179	29,871
財務活動によるキャッシュ ・フロー	(百万円)	2,316	3,304	2,335
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	21,880	13,866	15,238

回次 会計期間		第35期 第3四半期会計期間	第36期 第3四半期会計期間
		自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	41.60	44.83

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
4. 株式給付信託(J-E S O P)が保有する当社株式を、1株当たり情報の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、中国経済の減速懸念等の影響により先行きに不透明感はあるものの、政府主導による経済対策や日本銀行による金融緩和策を背景として企業収益や雇用環境の改善が見られ、個人消費は底堅い動きとなるなど、緩やかな回復基調が続きました。

住宅市場につきましては、政府による住宅取得の促進に向けた施策の効果等により新設住宅着工戸数は前年同期を上回るなど、持ち直しの傾向となりました。住宅ローン市場におきましては、長引く低金利情勢を背景に、激しい獲得競争が展開されました。

このような事業環境のもと、当社は、「保証事業の拡大」ならびに「統合リスク管理制度の活用」の課題を中心に各種施策に取り組んでまいりました。

保証事業の拡大におきましては、既存提携金融機関との取引深耕および未提携金融機関との新規契約締結に取り組んでまいりました。既存提携金融機関との取引深耕につきましては、新無担保商品「住まいる いちばんセレクト」の提供を開始し、取扱金融機関の拡大に努めました。また、住宅ローン獲得に向けた営業推進にお役立ていただくため、例年ご好評いただいておりますキャンペーンを平成28年1月4日から2月29日までの期間にて実施することといたしました。一方、未提携金融機関との新規契約締結につきましては、積極的な営業活動を展開した結果、当第3四半期累計期間において銀行2行、信用組合1組合、JA15組合、その他1社の合計19機関と契約締結に至りました。この他、保証債務残高の拡大を目指し、他社の保有する住宅ローン保証債務の引き受けを実施いたしました。

統合リスク管理制度の活用におきましては、統合リスク管理態勢の構築により、主要なリスクである信用リスク・オペレーショナルリスク・市場リスクの総合的なリスク計量化を行い、収益管理、経営資源の効率的配分等に活用しました。

こうした取り組みの結果、営業収益は18,951百万円（前年同期比8.2%増）、営業利益は14,140百万円（前年同期比13.5%増）、経常利益は14,933百万円（前年同期比13.3%増）、四半期純利益は9,921百万円（前年同期比15.1%増）となりました。

なお、当社は信用保証事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて3.5%増加し、221,541百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べて2.5%増加し、158,614百万円となりました。これは繰延税金資産が減少したものの、求償債権、有価証券が増加したことなどによります。

固定資産は、前事業年度末に比べて6.2%増加し、62,927百万円となりました。これは投資有価証券が増加したことなどによります。

負債合計は、前事業年度末に比べて0.7%増加し、154,555百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べて21.8%減少し、23,188百万円となりました。これは未払金、未払法人税等、債務保証損失引当金が減少したことなどによります。

固定負債は、前事業年度末に比べて6.1%増加し、131,367百万円となりました。これは長期前受収益が増加したことなどによります。

純資産合計は、前事業年度末に比べて10.7%増加し、66,986百万円となりました。これは利益剰余金が増加したことなどによります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、営業活動により11,111百万円増加し、投資活動により9,179百万円、財務活動により3,304百万円それぞれ減少した結果、前事業年度末より1,372百万円減少し、13,866百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、増加した資金は11,111百万円となりました。主な増加要因は税引前四半期純利益14,933百万円、長期前受収益の増加額7,211百万円等であります。一方、主な減少要因は法人税等の支払額7,580百万円等であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、減少した資金は9,179百万円となりました。主な減少要因は定期預金の預入による支出88,850百万円、有価証券の取得による支出8,000百万円、投資有価証券の取得による支出5,864百万円等であります。一方、主な増加要因は定期預金の払戻による収入85,955百万円、有価証券の売却及び償還による収入7,000百万円等であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、減少した資金は3,304百万円となりました。減少要因は配当金の支払額3,304百万円であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	160,000,000
計	160,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年2月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	68,860,980	68,860,980	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のない、 当社における標準となる株式 であります。 単元株式数は100株であります。
計	68,860,980	68,860,980		

(注) 提出日現在発行数には、平成28年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日		68,860,980		10,684		618

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日である平成27年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 68,856,200	688,562	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない、当社における標準となる株式であります。
単元未満株式	普通株式 4,580		
発行済株式総数	68,860,980		
総株主の議決権		688,562	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式給付信託(J-E S O P)の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式99,600株(議決権の数996個)を含めておりません。

【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 全国保証株式会社	東京都千代田区大手町 二丁目1番1号	200		200	0.00
計		200		200	0.00

(注) 株式給付信託(J-E S O P)の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式99,600株は、上記自己株式に含めておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期財務諸表等規則第4条の2第3項により、四半期キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(平成27年10月1日から平成27年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年12月31日まで)に係る四半期財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3. 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	0.0%
売上高基準	0.7%
利益基準	0.2%
利益剰余金基準	0.0%

会社間項目の消去後の数値により算出しております。



1 【四半期財務諸表】  
(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	112,693	112,615
求償債権	12,448	13,612
有価証券	11,099	15,376
金銭の信託	20,254	20,173
未収入金	417	231
前払費用	30	41
繰延税金資産	5,021	4,076
その他	298	386
貸倒引当金	7,536	7,899
流動資産合計	154,727	158,614
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	170	170
減価償却累計額	115	121
建物(純額)	55	49
車両運搬具	51	54
減価償却累計額	23	27
車両運搬具(純額)	27	26
工具、器具及び備品	332	342
減価償却累計額	239	260
工具、器具及び備品(純額)	93	81
土地	4	4
有形固定資産合計	180	161
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	360	426
ソフトウェア仮勘定	128	-
その他	3	3
無形固定資産合計	491	429
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	48,000	51,816
関係会社株式	9	9
投資不動産	42	-
長期預金	8,300	8,300
長期前払費用	74	71
繰延税金資産	1,566	1,502
その他	577	636
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	58,570	62,335
固定資産合計	59,242	62,927
資産合計	213,970	221,541

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
前受収益	12,450	13,218
預り金	21	66
未払金	2,516	721
未払法人税等	4,225	530
賞与引当金	179	103
債務保証損失引当金	1 10,193	1 8,538
株主優待引当金	69	-
その他	3	8
流動負債合計	29,660	23,188
固定負債		
長期前受収益	123,669	131,325
長期末払金	47	-
退職給付引当金	50	8
株式給付引当金	17	33
その他	0	-
固定負債合計	123,785	131,367
負債合計	153,445	154,555
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,681	10,684
資本剰余金	615	618
利益剰余金	49,343	55,959
自己株式	270	267
株主資本合計	60,370	66,996
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	123	65
評価・換算差額等合計	123	65
新株予約権	30	56
純資産合計	60,524	66,986
負債純資産合計	213,970	221,541

## (2) 【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
営業収益		
収入保証料	17,436	18,882
その他	81	69
営業収益合計	17,518	18,951
営業費用		
債務保証損失引当金繰入額	1,985	1,432
貸倒引当金繰入額	334	367
給料手当及び賞与	1,050	1,154
賞与引当金繰入額	89	103
減価償却費	197	145
その他	2,070	2,343
営業費用合計	5,059	4,811
営業利益	12,458	14,140
営業外収益		
受取利息	730	595
受取配当金	74	129
投資事業組合運用益	6	-
金銭の信託運用益	215	39
その他	41	46
営業外収益合計	1,068	810
営業外費用		
デリバティブ評価損	327	-
支払手数料	7	12
その他	11	5
営業外費用合計	346	18
経常利益	13,180	14,933
税引前四半期純利益	13,180	14,933
法人税、住民税及び事業税	3,797	3,914
法人税等調整額	765	1,097
法人税等合計	4,562	5,011
四半期純利益	8,617	9,921

## (3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	13,180	14,933
減価償却費	197	145
貸倒引当金の増減額(は減少)	158	363
賞与引当金の増減額(は減少)	77	75
債務保証損失引当金の増減額(は減少)	1,218	1,669
株主優待引当金の増減額(は減少)	-	69
退職給付引当金の増減額(は減少)	40	42
株式給付引当金の増減額(は減少)	-	15
受取利息及び受取配当金	805	724
投資事業組合運用損益(は益)	6	-
デリバティブ評価損益(は益)	327	-
金銭の信託の運用損益(は益)	215	39
求償債権の増減額(は増加)	978	1,163
前受収益の増減額(は減少)	514	702
未払金の増減額(は減少)	3,159	1,754
長期前受収益の増減額(は減少)	4,501	7,211
長期未払金の増減額(は減少)	2,924	47
その他の資産・負債の増減額	79	248
小計	17,492	18,034
利息及び配当金の受取額	752	657
法人税等の支払額	6,938	7,580
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,305	11,111
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	89,405	88,850
定期預金の払戻による収入	90,530	85,955
有価証券の取得による支出	6,000	8,000
有価証券の売却及び償還による収入	8,800	7,000
金銭の信託の取得による支出	10,000	-
金銭の信託の解約及び配当による収入	-	93
有形固定資産の取得による支出	34	50
有形固定資産の売却による収入	-	2
無形固定資産の取得による支出	80	68
投資有価証券の取得による支出	8,165	5,864
投資有価証券の売却及び償還による収入	2,505	30
投資事業組合からの分配による収入	110	-
投資不動産の取得による支出	11	-
投資不動産の売却による収入	-	48
投資不動産の賃貸による支出	0	0
投資不動産の賃貸による収入	1	0
吸収分割による収入	-	524
投資活動によるキャッシュ・フロー	11,750	9,179

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	0
自己株式の取得による支出	269	-
配当金の支払額	2,046	3,304
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,316</b>	<b>3,304</b>
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,760	1,372
現金及び現金同等物の期首残高	24,641	15,238
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 21,880	1 13,866

【注記事項】

(会計上の見積りの変更)

(債務保証損失引当金の見積りの変更)

従来より、債務保証に係る損失に備えるため、東日本大震災の発生により支払能力に影響が見込まれる保証委託者に係る保証債務については、個別に算定した損失負担見込額を債務保証損失引当金として計上しておりましたが、保証委託者の就労状況及び物件状況に関する直近の調査結果を踏まえ、第2四半期会計期間において、自己査定基準に則り債務保証損失引当金を計上する方法に変更しております。

これにより、当第3四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益はそれぞれ419百万円増加しております。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

(1) 取引の概要

当社は、当社の株価や業績と従業員等(当社の従業員並びに当社子会社の取締役及び従業員を含む、以下同じ。)の処遇の連動性をより高め、経済的な効果を株主の皆様と共有することにより、株価及び業績向上への従業員等の意欲や士気を高めるため、従業員等に対して当社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託(J-E S O P)」(以下、「本制度」という。)を導入しております。

本制度は、予め当社が定めた株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした従業員等に対し当社株式を給付する仕組みです。

当社は、従業員等に対し個人の貢献度等に応じてポイントを付与し、一定の条件により受給権の取得をしたときに当該付与ポイントに相当する当社株式を給付します。従業員等に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理しております。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前事業年度269百万円、100,700株、当第3四半期会計期間266百万円、99,650株であります。

(四半期貸借対照表関係)

1 偶発債務

保証債務残高は次の通りであります。

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
住宅ローン等に対する保証債務(*)	9,159,733百万円	9,802,292百万円
債務保証損失引当金	10,193 "	8,538 "
差 引	9,149,539百万円	9,793,754百万円

(\*) 延滞利息については見積りが不能であるため、上記保証債務には含めておりません。また、当第3四半期会計期間の保証債務残高のうち、一部は推計値であります。

(四半期損益計算書関係)

1 営業収益の季節的変動

前第3四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)及び当第3四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

当社では、生命保険会社に対する団体信用生命保険の取次ぎに伴う収入保証料が第4四半期会計期間に集中するため、第4四半期会計期間の営業収益が他の四半期会計期間の営業収益と比較して多くなる傾向にあります。このため、事業年度の営業収益に占める第3四半期累計期間の営業収益は相対的に少なくなっております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
現金及び預金	115,285百万円	112,615百万円
有価証券のうち3ヶ月以内に満期日の 到来する公社債投資信託等	- "	7,000 "
有価証券勘定に含まれる譲渡性預金	- "	1,000 "
計	115,285百万円	120,616百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	93,405 "	106,750 "
現金及び現金同等物	21,880百万円	13,866百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月20日 定時株主総会	普通株式	2,065	30.00	平成26年3月31日	平成26年6月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

平成26年5月19日開催の取締役会において決議いたしました「株式給付信託(J-E S O P)」の導入により、自己株式を269百万円取得し、当第3四半期会計期間末における自己株式は270百万円となっております。

当第3四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月19日 定時株主総会	普通株式	3,305	48.00	平成27年3月31日	平成27年6月22日	利益剰余金

(注) 平成27年6月19日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式給付信託(J-E S O P)が保有する当社株式に対する配当金4百万円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(金融商品関係)

前事業年度末(平成27年3月31日)

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 有価証券及び投資有価証券	58,652	61,533	2,880
(2) 長期預金	8,300	7,979	320

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、注記事項「有価証券関係」を参照ください。

(2) 長期預金

長期預金については、取引金融機関から提示された価格によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	貸借対照表計上額
非上場株式( )	156
組合出資金( )	291
子会社株式( )	9
合計	456

( ) 非上場株式、組合出資金及び子会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしていません。

(注3) 保証債務については、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価の注記を省略しております。



当第3四半期会計期間末(平成27年12月31日)

有価証券及び投資有価証券、長期預金が、会社の事業の運営において重要なものであるため記載しております。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注2)を参照ください。

(単位:百万円)

	四半期貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 有価証券及び投資有価証券	66,745	69,776	3,031
(2) 長期預金	8,300	8,137	162

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、注記事項「有価証券関係」を参照ください。

(2) 長期預金

長期預金については、取引金融機関から提示された価格によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の四半期貸借対照表計上額

(単位:百万円)

区分	四半期貸借対照表計上額
非上場株式( )	156
組合出資金( )	291
子会社株式( )	9
合計	456

( ) 非上場株式、組合出資金及び子会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

(注3) 保証債務については、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価の注記を省略しております。

(有価証券関係)

前事業年度末(平成27年3月31日)

1. 満期保有目的の債券

(単位:百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 国債・地方債等	26,244	28,923	2,679
(2) 社債	14,417	14,618	201
(3) その他	-	-	-
計	40,661	43,542	2,880

2. その他有価証券

(単位:百万円)

	貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1) 株式	2,033	1,927	105
(2) その他	15,958	15,878	79
計	17,991	17,806	184

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額156百万円)及び組合出資金(貸借対照表計上額291百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当第3四半期会計期間末(平成27年12月31日)

満期保有目的の債券及びその他有価証券が、会社の事業の運営において重要なものであるため記載しております。

1. 満期保有目的の債券

(単位:百万円)

	四半期貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 国債・地方債等	26,294	29,178	2,884
(2) 社債	17,343	17,511	168
(3) その他	2,500	2,478	21
計	46,137	49,168	3,031

2. その他有価証券

(単位:百万円)

	四半期貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1) 株式	2,227	2,252	24
(2) その他	18,379	18,448	69
計	20,607	20,700	93

(注) 非上場株式(四半期貸借対照表計上額156百万円)及び組合出資金(四半期貸借対照表計上額291百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

相手企業の名称及び取得した事業の内容

相手企業の名称                      せいしん信用保証株式会社

取得した事業の内容                      信用保証事業

企業結合を行った主な理由

信用保証事業の規模拡大、及び、せいしん信用保証株式会社の親会社である静清信用金庫との住宅ローン保証業務の取引深耕を図るためであります。

企業結合日

平成27年10月1日

企業結合の法的形式

せいしん信用保証株式会社を分割会社とし、当社を承継会社とする吸収分割

結合後企業の名称

全国保証株式会社

取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価として事業を承継したためであります。

(2) 四半期累計期間に係る四半期損益計算書に含まれる取得した事業の業績の期間

平成27年10月1日から平成27年12月31日まで

(3) 取得した事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	0百万円
取得原価		0百万円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)及び当第3四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

当社の事業は、信用保証事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	125.24円	144.29円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	8,617	9,921
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	8,617	9,921
普通株式の期中平均株式数(株)	68,805,876	68,760,654
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	125.23円	144.26円
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(株)	7,862	14,947
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 株主資本において自己株式として計上されている株式給付信託(J-E S O P)に残存する当社株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

1株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前第3四半期累計期間52,083株、当第3四半期累計期間100,085株であります。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 2月 2日

全国保証株式会社  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 桐 川 聡

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石 井 雅 也

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている全国保証株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第36期事業年度の第3四半期会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、全国保証株式会社の平成27年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。